

令和2年度
事業報告書

社会福祉法人 花木庭会

目 次

I	基本理念	1
II	令和2年度基本方針	1
III	令和2年度事業目標	1
IV	概要	2
V	評議員会、理事会の開催状況	8
VI	行事実績(令和2年度)	9
VII	ボランティアの受入状況(令和2年度)	9
VIII	職員配置の状況	10
IX	利用者の状況	10
X	利用者の日課	12
X I	利用者の通院状況	12
X II	苦情解決	13
X III	事業報告の附属明細書	13

I 基本理念

- 1 障害者の人権と尊厳を守り、自立と社会参加の支援を行う。
- 2 福祉事業を通じて地域社会の発展に貢献する。
- 3 ご利用者様、職員、法人の三者全ての安心と満足度を高める。

II 令和2年度基本方針

- 1 ご利用者様へ、常に真心を込めて安心と安全を提供する。
- 2 地域との交流を活発にし、地域から必要とされる施設づくりを目指す。
- 3 職員の自己研鑽による能力アップに努める。
- 4 技術力の向上により、よりよいサービスに徹する。
- 5 社会的ルールの遵守(コンプライアンス)を徹底する。

III 令和2年度事業目標

1 生活相談

- ① 利用者の人権尊重、権利擁護。
- ② 入所待機者の確保。
- ③ 相談支援事業を通じて地域社会へ貢献する。

2 生活支援

- ① 利用者の個人ニーズに応じた個別支援に取り組む。
- ② 職員としての質の向上。
 - ・利用者寄り添い、相手の立場に立った思いやりのある言動を心がける。
 - ・技術の向上及び障害の特性に応じた心のサポートを学ぶ。
 - ・職員間の連携を図り、安心・安全な支援を提供する。

3 医療

- ① 各部署との連携。
- ② 早期発見、早期治療。

4 総務

- ① 職員研修によりスキルアップを図る。
- ② 防災訓練や行事等をとおして、地域とのつながりを密にする。
- ③ 安全運転の励行。
- ④ 情報管理の徹底に努める。

5 給食

- ① 衛生管理を重点的に行う。
- ② 利用者の個人ニーズに応じた栄養ケア支援に努める。
- ③ 調理技術の向上(高齢化、重度化対応)。

IV 概要

令和2年度は、花木庭会の法人運営においては、評議員会は3回開催され、決算報告、事業計画、収支予算など6議案について審議がなされた。

理事会は3回開催され、補正予算、賞与引当金の計上や規程の改正など14議案について審議がなされた。

監事会は5月に定例監査が実施された。また、評議員会及び理事会へ出席された。

インターネットによる公表は、定款、役員名簿、評議員名簿、役員等報酬規程及び令和元年度決算書を当法人のホームページに掲載するとともに、現況報告書、計算書類等及び事業所情報を社会福祉法人の財務諸表等電子開示システムに届出し情報公開をしている。

施設・設備の整備では、厨房内にエアコンを増設した。これは、夏場に厨房内の室温が下がらない状況が生じていたため、増設したことにより室温を一定に保つことができるようになった。

その他、利用者の重度化と職員不足を補うため、手動ギャジベッドから電動ベッドへ10台の更新及び床走行電動リフターの整備を行った。

平成15年に整備した空調設備に故障が発生したが、修理部品の調達に3ヶ月を要するため急遽7部屋にウインドウエアコンを仮設置して夏場を乗り切ることができた。

入浴については、3台の機械浴槽を使つての個々の入浴回数は週2回であったが、夏場はシャワー浴とし、週3回へと回数を増やして利用者の健康保持に努めることができた。

職員配置の状況としては、年間を通して全体の平均配置数が46.5人（常勤換算45.2人）と前年度に対して平均配置数で1.1人（常勤換算0.7人）の増加となったが、育児休業や退職等により、年間の生活支援員の平均配置数は27.4人（常勤換算26.2人）で前年度と比較すると、平均配置数は1.6人（常勤換算1.8人）減少した。

年度内の退職者が生活支援員で6人となったが、看護師1人、生活支援員3人、調理員1人の採用を行うことができ、年度末での職員数が48人となり、全職員のチームワークにより利用者へのサービス提供を行うことができた。

利用者へのよりよいサービスを提供するためには、職員の資質の向上が欠かせないものとなるため、施設内研修を定期的で開催してきた。施設外での研修会には新型コロナウイルス感染症の感染防止のため多くが中止となり、集合研修は県内研修会への参加に留まったが、下半期はオンラインでの研修会が開催され参加することができた。

新型コロナウイルス感染症対策として、年間を通して、マスクの着用、手洗い、消毒、換気の徹底を行った。職員には出勤前の体温測定を義務付け、手指消毒用アルコールを携帯させるようにした。また、対面する面会室や食堂などにアクリルパーテーションや、手指消毒液を設置し、新型コロナウイルス感染症の感染防止に努めた。

緊急事態宣言の発令、県内や近隣市町の感染状況等により、外出を伴う行事の中止、秋祭り、園内運動会は外部からの参加者を受け入れずに縮小しての開催、利用者の外出の自粛や面会禁止の措置をとった。

こうした様々な対策により現在まで利用者や職員から感染者は出さずに済んでいる。

1 生活相談

利用者の権利擁護、人権尊重の観点から日々の支援において課題が見つかった時点で速やかに改善に努めた。

利用者は重度化の傾向にあり、介護の度合いが高くなった利用者については、障害支援区分も高くなり、きめ細やかなサービスが必要となり、支援内容を変更することがあった。

個別支援計画におけるサービス提供は、月ごとの実績表や中間評価表で、計画のモニタリングを行い、サービスの質の向上に努めた。

入所待機者については、行政機関や医療機関等との連携を図り、入所待機者の確保に努め、年度末での待機者は17人となった。

入所利用者は、年度内に3人が退所となり、年度末では43人となった。次年度は、利用者の受入を図っていききたい。

2 計画相談

相談支援センター鹿島療育園で、実施した指定特定相談支援事業では、市町より依頼があった計画相談については、速やかに対応し、令和2年度中に策定したサービス等利用計画は入所者11件、在宅者23件の合計34件であり、その内、新規での利用計画策定は2件であった。障害種別では身体障害者21人、知的障害者4人、精神障害者9人であった。

また、利用計画に沿ってサービスが適切に提供されていることを定期的に確認するモニタリング（継続サービス利用支援）は147件で前年度より32件の増加となった。

指定障害児相談支援事業では、家族から依頼を受け計画相談を行った。新規の身体障害児1人のサービス等利用計画の策定とモニタリング2回を実施することができた。

3 生活支援

延べ利用者数は15,783人で前年度の16,409人から大きく626人減少した。

これは、生活支援員の不足により利用者へのサービスの低下が生じないよう前年度末の利用者数46人のままとしたため、稼働率は83.2%となった。

事業目標である利用者の個人ニーズに応じた個別支援への取り組みについては、利用者の主体性を尊重し、個人やその家族が望まれている目標を個別支援計画に反映し日々の生活の中で取り組んでいる。個人のニーズに応じるためには計画上のみの支援ではなく、利用者の小さな思いにも耳を傾け、常に情報の共有を継続している。現状に課題点が見つかれば振り返り、改善、その後の対応策へと繋げて支援の充実を図ってきた。

職員の質の向上については、利用者の高齢化・重度化が進む中、生活支援員の中に認定特定行為従事者（喀痰吸引研修課程修了者）が現在5人在籍し、医療的ケアが求められる支援への対応にも安心を得られてきた。

これからも、利用者に寄り添うことで安心を得ていただけるよう、言葉を越えた支援を提供していききたい。

4 生活介護（日中のみ）

年間の延べ利用者数は488人で前年度の526人から38人減少し、一日当たりの利用者数の平均は、1.8人となり、定員4人での稼働率は45.4%となった。利用者の入退所は共に1人ずつで大きな変化は見られなかったが、新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言を受け4月24日から5月31日まで休業したことも影響している。

通所利用者の支援においては、入所利用者と同様条件のもとで支援を展開し、ご本人、

ご家族のニーズに応じた個別支援計画を策定し、サービスの向上に努めてきた。

ご家族とは送迎のわずかな時間に顔を合わせ、言葉を交わすことによって情報が共有され、信頼関係が構築されていたことにより、緊急時の対応も理解と協力を得ることができた。

5 短期入所

年度内の利用者の実人員は5人であった。年度内に死亡のため、1人減少し、3月から2人の新規利用者が増えたが、新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言を受け4月24日から5月31日まで受け入れを中止した。また、利用者自ら感染防止のため利用を見合わせられるなどで、利用者の増加につながらず、年間の延べ利用者数は266人と前年度の327人から61人減少した。

個別支援計画の策定は必要ないものの、利用者の希望される支援については、主体性を尊重した支援を行った。

6 機能回復訓練

現状の身体機能、生活能力を維持し日常の生活を営むための訓練として、医師及び作業療法士の指示を受け、個別支援計画への取り組みへと繋げ、訓練の継続により日常生活がより豊かなものになるように取り組んでいる。

訓練の実施状況は、職員数が少ないときでもグループを小規模化することや、居室にて行う事により、訓練が実施できるような環境を確保するように努めた。

今後も参加率の向上を目標に利用者の健康維持、機能維持に努めていきたい。

7 サークル活動

○ 手芸サークル

外部講師による押し花を年7回（6・7・9・10・11・2・3月）実施し、職員による手芸を年2回（4・8月）実施した。5月は新型コロナウイルス感染症予防のため中止した。

押し花の参加利用者は平均10人となっている。

参加利用者を2グループに分け、消毒や換気など感染症予防に努めながら、講師や職員の介助を受けつつ四季折々の押し花を使い、希望に沿った様々な作品を制作、完成された作品を手に取りとても満足そうにされている様子が伺えた。作品は園内での展示や作品展への出展も行っている。

手芸については、手持ちのスキルスクリーンに取り組まれている利用者2人が参加されている。

○ 音楽・カラオケサークル

月1回の外部講師による音楽サークルでは、四季をテーマとした曲や利用者のリクエストによる曲をピアノで演奏してもらい、参加者全員で歌うことにより歌うことの楽しさを感じられている。

音楽サークルは10回実施し、参加利用者は平均16人となっている。

4・5月は新型コロナウイルス感染症予防のため中止した。

カラオケサークルは月に2回の活動であるが、4～6月は月1回、7月より月2回の活動とした。歌う事が好きな利用者の参加で、通所利用者・短期入所利用者の参加もあり、毎回16人程の利用者が参加されている。

新型コロナ感染症対策として、手指消毒、利用者間の距離をとり、換気、使用物品の消毒に努めながら実施した。好きな歌を歌ったり、他の利用者の歌に合わせて手拍子をしたり、

口ずさんだりするなど和やかな雰囲気の中で実施できており、利用者の楽しみ、気分転換にも繋がっている。

○囲碁・将棋サークル

月に1度ボランティアによる活動が行われていたが、新型コロナウイルスの影響と、ボランティアの方の来園が難しくなり令和2年度は活動がなく、令和2年度をもって活動中止となる。

○園芸サークル

運動広場周辺の花壇は、車椅子での作業ができるように高めになっているため、興味のある利用者が、花や球根の植え込みや除草等余暇時間に取り組まれている。

春・秋に花壇の花植えや園内の除草作業等を行ったが、天候の影響や業務の都合により実施できない月もあり、活動できる利用者が少ないことから、活動内容の在り方を検討していく必要がある。

○生活サークル

感染症対策を施しながらゲーム・習字、絵、朗読等毎月活動内容を計画し毎月実施した。参加利用者は平均15人であった。

意欲的に参加される利用者が少なくなってきたが、利用者間での交流や職員との関わりの中での会話を楽しみながら、サークル活動が進められ、利用者からも「楽しかった」との声も聞かれた。

習字、絵等の作品や季節感を取り入れた共同作品については廊下に掲示している。

新型コロナウイルス感染症予防のため、忘年会での出し物が出来なかったが、次年度は、また皆でやりたいとの声も上がっている。

○編集サークル

年4回発行している「はなこば新聞」では、利用者の生活状況や行事等の様子、ボランティアとの交流の様子、利用者の感想等をご家族や関係団体等にお知らせすることができた。より良い「はなこば新聞」になるよう、担当職員や利用者が役割分担しコミュニケーションを図りながら取り組んだ。

○レクリエーション・余暇活動

レクリエーションは、3か月毎(5・8・11・2月)に実施予定であったが、業務の都合により、2月より生活サークルとレクリエーションを統合することになり、2月からは生活サークルとして実施し、3回の平均で18人の参加があった。

クイズや体操・ゲーム・ボッチャなど様々な内容の活動を計画・実施した。参加された利用者も普段出さないような大きな声を出したり、体を動かしたりと楽しんで参加されている様子が伺え、新型コロナウイルス感染症の影響で、外出や外部との交流が難しい状況の中、利用者間の交流、ストレス発散につながったのではないかとと思われる。

利用者が参加したいと思われるような活動内容を計画・実施していくことで、職員のレクリエーション、支援技術の向上が図られ、また利用者も生活に楽しみを持ってもらえるものとする。

余暇活動は、2か月毎(偶数月)に実施する予定であったが、業務の都合により12月より活動を中止している。4・6・8・10月の余暇活動は感染症対策を施し、プロジェクターを利用したDVD鑑賞を行い、毎回20人前後の利用者が参加された。

○フラワーアレンジを楽しむ会

元職員3人のボランティアで、年2回(6・12月)実施し、平均16人の利用者の参加があった。

感染症対策として密を避けるため、参加利用者を 2 グループに分け利用者間の距離をとり、消毒や換気も行いながらフラワーアレンジを実施した。

12月のフラワーアレンジではクリスマスリースづくりが行われたが、材料が個々に準備されていたことから利用者の方も取り組みやすく、利用者の満足度も高かったようである。

8 苦情相談

苦情は、毎月行われている利用者懇談会で 4 件、随時に口頭での申し出が 2 件で合わせて 6 件となった。内容別では、職員の配慮不足など職員に関するものが 4 件、利用者間の対人トラブルによる利用者に関するものが 1 件、設備の不良による施設に関するものが 1 件であった。苦情については、概ねその場で回答し、検討が必要なものについては翌月の利用者懇談会において回答を行った。

今後も苦情について傾聴し、速やかな解決策が望まれる。また、更なる相談サービス提供者としての職員の資質の向上が求められる。利用者間の苦情については相互理解が必要であり、苦情が軽減するような職員の支援も必要と思われる。

9 医療

利用者の延入院日数は、740 日で前年度の 411 日より大きく増加した。これは 1 月以上の入院者が前年度の 2 人から 8 人へと増加したことによるものと考えられる。その内の 1 人は、内服薬の調整のため 100 日を越す長期入院が必要となった。

退所者は、継続した医療が必要となった者が 2 人、死亡による者が 1 人となった。

通院は、年間 833 人で前年度より 9 人減少した。内訳は訪問歯科が 344 人と一番多く、次いで泌尿器科、外科、内科が続き、通院に多大の時間を要している状況であり、既往歴で再発する病名では、褥瘡、腎臓疾患、皮膚疾患が多くあった。また、精神疾患による通院者は 11 人を数え、うち 2 人は医療保護入院中である。

泌尿器科受診は、バルーン留置者が 3 人増えたことで 7 人となり、経管栄養の利用者も 2 人から 4 人になるなど、高齢化に伴い嚥下機能の低下などもみられるようになり、現在、喀痰吸引必要者 6 人と医療行為が必要な利用者が増えている。

食事中的ムセ・咳込みなど嚥下力の低下もみられ、水分トロミ・刻み食：ミキサー食の提供者も増加し食事介助者も増加傾向であり誤嚥リスクが高い利用者が増えているためその都度嚥下検査を行い対応している状況で今後も増加傾向にあると思われる。

令和 2 年 3 月から新型コロナウイルス感染症予防対策期間として取り組み、手洗い・消毒・換気・加湿を行い、利用者は外出時や受診時、職員は勤務時にマスクの着用を行っている。

利用者や職員の施設内での新型コロナウイルスの感染に至ることはなく、インフルエンザの罹患者も発生しなかった。

障害の重度化に伴い、発症から悪化するまでのペースも早く、また、本人の訴えも乏しいこともあり、日頃の様子との比較や、健康チェックを行うことで、速やかに対応した。

協力病院として犬塚病院、納富病院、織田病院、嬉野温泉病院へお願いすることが多いが、病院では、コミュニケーションがとりにくく、また、介護の度合いで通院治療となるケースも見受けられた。

今後も、嘱託医や他職種間との連携を密に利用者への支援を行っていきたい。

10 給食

利用者の高齢化・重度化傾向により、よりきめ細やかなサポートが必要となる中で、医療・生活支援・給食が連携して一人ひとりに応じた食事形態で提供し、特に低栄養状態の方には栄養ケアマネジメントを策定し、生活機能の維持改善の支援を行った。

食事形態では、主食は、普通・二炊き・二炊きミキサー・全粥・全粥ミキサー食の5段階とし、副食の切り方は、普通・小刻み・ミキサー食に分けて提供した。

また、療養食として低脂肪食・減塩食・減塩低脂肪食・糖尿病食に取り組み、利用者一人ひとりの身体状況に合った食事内容で提供した。

食事提供数は、全利用者合わせて、年間47,132食で、毎食の平均では43.0食となった。

嗜好調査や給食座談会を毎年行い、調査結果を基に主食、主菜で嫌いな食材やアレルギー食品は、代替食にて提供することで、満足度を上げ、食事摂取量向上につなげ、体力維持・機能低下防止に努めてきた。また、限られた予算内で季節の物や手作りデザートを提供し、利用者からも好評を得ている。楽しんで食べてもらえるように、調理員と栄養士で工夫と改善を重ね研鑽を積んできた結果、残菜が少なくなっている。

安全面では「食中毒防止」「異物混入防止」等の衛生管理を徹底し、手洗い消毒と生野菜の処理、機械器具のアルコール消毒等の基本的対応を最重要ポイントとしてあげ、冬だけでなく夏場にも発生するようになった「ノロウイルス防止」など、1年間を通じて「食中毒防止」、「ウイルスの感染予防」に努めることで、衛生管理の目標を達成し、安全・安心に食事摂取をしてもらうことができた。

11 防災

防災訓練は、職員が火災時に必要な初期行動及び利用者の安全な避難ができるよう毎月1回実施してきた。夜間は勤務する職員が3人となり、特に職員間の連携が求められるため、より速やかで安全な避難誘導が実施できるよう、訓練を重ねてきた。年間で、夜間を想定しての訓練を11回実施し、1回は昼間を想定しての訓練を行った。また、10月には鹿島消防署、鹿島市消防団などの関係機関及び近隣地域の協力を受けながら総合防災訓練を実施した。

全職員を対象とした夜間の招集訓練は9月に実施した。電話連絡網及び一斉メールにて伝達し、訓練開始後20分以内に約半数にあたる25人が登園した。招集訓練を行うことで、施設の非常時には駆けつけるといった意識づけにも繋がっている。

利用者の方も加齢等による身体機能の低下がみられ、重度化が進んでいる。殆どの利用者が避難誘導の際に何らかの支援を必要とする方であり、今年度実施した防災訓練での避難誘導時間は、平均で13分46秒を要した。車いすに移乗せずにベッドでの避難が有効な利用者は臥床したままでの誘導とし、その結果、速やかな避難誘導が実施できている。

V 評議員会、理事会の開催状況

<評議員会>

第1回

開催日	令和2年6月15日
議案	令和元年度決算報告書(貸借対照表、収支計算書及び財産目録)(案)の承認について

第2回

開催日	令和2年11月16日
議案	令和2年度鹿島療育園拠点区分第1次資金収支補正予算内訳表(案)の承認について

第3回

開催日	令和3年3月26日
議案	令和2年度法人本部拠点区分第1次資金収支補正予算内訳表(案)の承認について 令和2年度鹿島療育園拠点区分第2次資金収支補正予算内訳表(案)の承認について 令和3年度事業計画書(案)の承認について 令和3年度資金収支予算内訳表(案)の承認について

<理事会>

第1回

開催日	令和2年5月28日
議案	令和元年度事業報告書(案)の承認について 令和元年度決算報告書(貸借対照表、収支計算書、貸借対照表・収支計算書の附属明細書及び財産目録)(案)の承認について 定時評議員会の開催(案)の承認について

第2回

開催日	令和2年11月4日
議案	令和2年度鹿島療育園拠点区分第1次資金収支補正予算内訳表(案)の承認について 評議員会の開催(案)の承認について

第3回

開催日	令和3年3月18日
議案	令和2年度法人本部拠点区分第1次資金収支補正予算内訳表(案)の承認について 令和2年度鹿島療育園拠点区分第2次資金収支補正予算内訳表(案)の承認について 賞与引当金の計上(案)の承認について 就業規則の改正(案)の承認について 給与規程の改正(案)の承認について 令和3年度事業計画書(案)の承認について 令和3年度資金収支予算内訳表(案)の承認について 鹿島療育園清掃業務委託に係る随意契約(案)の承認について 評議員会の開催(案)の承認について

VI 行事实績（令和2年度）

月	日	行 事 名	摘 要
4月	1日	桜の花見会	映像で観る桜の花見会
5月	13日	利用者健康診断	血液検査、心電図、前立腺がん検査、胸部レントゲン
5月		家族会総会	書面審議（事業報告・計画等）
5月	27日	ランチパーティ	セレクトメニュー
7月	10日	安全祈願祭	安全祈願
8月	9日～8月16日	夏季帰省	帰省者5人
8月	24日～9月6日	介護福祉実習	コミュニケーション、食事介助等
9月	2日	秋祭り	映像で観る過去の秋祭り
9月	30日	敬老会	長寿者のお祝い
10月	1日～10月8日	利用者健康診断	尿検査
10月	7日	園内運動会	利用者、職員参加
10月	30日	介護者教室	自殺防止について
11月	11日	追悼会	物故者の供養
12月	9日	忘年会	映像で観る1年間の行事
12月	13日	ボッチャ大会	障害者スポーツの体験
12月	28日～1月6日	冬季帰省	帰省者6人
1月	27日	初詣	映像で観る初詣、お守り注文配布
1月	28日	不在者投票	白石町議会議員選挙
2月	6日～2月14日	第20回佐賀県障害者文化芸術作品展	作品 8点出展
3月	31日	桜の花見会	映像で観る桜の花見会

VII ボランティアの受入状況（令和2年度）

月	日	団 体 名	摘 要
随時	(年7回)	押し花	押花の作製支援
随時	(年4回)	鹿島市婦人ボランティア五五会	花紙作製、車椅子清掃
6月	14日・12月6日	フラワーアレンジを楽しむ会	フラワーアレンジメント
5月	27日・9月30日	職員のボランティア活動	地域の清掃（除草作業・ゴミ拾い）
7月	20日	楠風会さくら会	ハンドロールカバー作製、車椅子清掃

Ⅷ 職員配置の状況

区分		施設長	事務長	生活相談員	看護師	生活支援員	事務員	栄養士	調理員	合計
令和元年度末職員数		1人	1人	3人	3人	31人	3人	3人	4人	49人
うち、臨時職員					(1人)	(6人)			(1人)	(8人)
期中	増加数	0人	0人	0人	1人	3人	0人	0人	1人	5人
	うち、臨時職員					(3人)				(3人)
	減少数	0人	0人	0人	0人	6人	0人	0人		6人
	うち、臨時職員					(2人)				(2人)
令和2年度末職員数		1人	1人	3人	4人	28人	3人	3人	5人	48人
うち、臨時職員					(1人)	(7人)			(1人)	(9人)

Ⅷ 利用者の状況

【入所者】

(1) 出身地別利用状況(令和2年度)

区分	佐賀市	伊万里市	武雄市	鹿島市	小城市	嬉野市	玄海町	有田町	大町	江北町	白石町	太良町	大村市	波佐見町	合計
男	3人	0人	5人	5人 ①	1人	5人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	0人	26人 ①
女	0人	1人	2人	4人 ①	0人	4人	0人	1人	0人	1人	2人	1人 ①	0人	1人	17人 ②
計	3人	1人	7人	9人 ②	1人	9人	1人	2人	1人	2人	3人	2人 ①	1人	1人	43人 ③

※○印は退園者数

(2) 月別在園者の状況(令和2年度)

区分	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
月初利用者数		46人	46人	46人	46人	46人	46人	46人	45人	45人	45人	45人	43人	
入園者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
退園者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人	1人	0人	0人	0人	2人	0人	3人
月末利用者数		46人	46人	46人	46人	46人	46人	45人	45人	45人	45人	43人	43人	

(3) 年齢構成表

令和3年3月31日現在

区分	15歳～19歳	20歳～29歳	30歳～39歳	40歳～49歳	50歳～59歳	60歳～64歳	65歳～69歳	70歳以上	合計	最小	最高	平均
男	0人	0人	0人	2人	5人	5人	7人	7人	26人	46才	81才	64.4才
女	0人	0人	1人	0人	4人	5人	3人	4人	17人	36才	89才	64.1才
計	0人	0人	1人	2人	9人	10人	10人	11人	43人			64.3才

(4) 在所期間の状況

性別	期間	1年以上	3年以上	5年以上	10年以上	15年以上	計	1人当り 平均 在所期間
	1年未満	3年未満	5年未満	10年未満	15年未満			
男	0人	0人	3人	5人	7人	11人	26人	17年 8月
女	0人	1人	2人	5人	3人	6人	17人	14年 6月
計	0人	1人	5人	10人	10人	17人	43人	16年 5月

(5) 障害原因別

障害原因	事 故				疾 病			合計 ① + ②
	交 通 事 故	労 働 災 害	そ の 他 の 事 故	小 計 ①	先 天 性 の 疾 病	後 天 性 の 疾 病	小 計 ②	
男	3	1	5	9	8	9	17	26
女	0	0	0	0	14	3	17	17
計	3	1	5	9	22	12	34	43

(6) 病症類別

属性	疾病・原疾患	主たる病症類・原疾患										前年度合計	
		脳 性 マ ヒ	脊 髄 損 傷	頸 髄 損 傷	胸 腰 髄 損 傷	小 計	脊 髄 マ ヒ	脳 血 管 障 害 後 遺 症	頭 部 外 傷 後 遺 症	リ ウ マ チ	そ の 他 の 難 病		そ の 他 の 疾 病
性別	男性	7	4	1	5	0	4	3	0	2	5	26	27
	女性	11	0	0	0	0	1	0	0	0	5	17	19
	合計	18	4	1	5	0	5	3	0	2	10	43	46
障害支援区分	区分6	16	4	1	5	0	4	2	0	1	5	33	32
	区分5	1	0	0	0	0	0	1	0	1	5	8	11
	区分4	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	3
	区分3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	区分2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	区分1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	18	4	1	5	0	5	3	0	2	10	43	46

【通所者】

(1) 出身地別利用状況

区分	鹿島市	白石町
男	3人	1人
女	2人	0人
計	5人	1人

【短期入所者】

(1) 出身地別利用契約状況

区分	鹿島市	白石町
男	4人	1人
女	2人	0人
計	6人	1人

Ⅸ 利用者の日課

7:00	起床・洗面
8:15	朝食
	健康チェック
	整理整頓
	ラジオ体操
10:00	機能回復訓練
12:00	昼食
14:00	自由時間
	余暇利用
	入浴
17:15	夕食
	自由時間
	娯楽時間
20:00	就寝準備
21:30	消灯

Ⅹ 利用者の通院状況

	内 科	外 科	精 神 科	眼 科	耳 鼻 科	歯 科	訪 問 歯 科	皮 膚 科	婦 人 科	泌 尿 器 科	そ の 他	計
4月	4人	12人	3人	2人	0人	0人	27人	3人	0人	11人	0人	62人
5月	4人	5人	3人	2人	0人	0人	16人	6人	0人	11人	0人	47人
6月	11人	14人	4人	3人	0人	6人	27人	7人	0人	0人	0人	72人
7月	5人	5人	1人	2人	0人	0人	30人	1人	0人	10人	0人	54人
8月	14人	10人	1人	2人	0人	0人	25人	17人	0人	15人	0人	84人
9月	8人	6人	2人	2人	0人	0人	36人	4人	0人	12人	1人	71人
10月	5人	15人	4人	1人	1人	1人	29人	1人	0人	9人	0人	66人
11月	15人	4人	2人	2人	0人	0人	27人	2人	0人	12人	0人	64人
12月	13人	11人	4人	2人	1人	0人	37人	3人	0人	13人	0人	84人
1月	10人	9人	4人	2人	1人	0人	22人	3人	1人	11人	0人	63人
2月	14人	16人	4人	3人	0人	0人	26人	1人	0人	8人	0人	72人
3月	9人	16人	3人	2人	2人	0人	42人	6人	0人	14人	0人	94人
計	112人	123人	35人	25人	5人	7人	344人	54人	1人	126人	1人	833人

前年度実績

計	96人	161人	40人	17人	5人	0人	325人	44人	5人	144人	5人	842人
---	-----	------	-----	-----	----	----	------	-----	----	------	----	------

X II 苦情解決

苦情受付件数

	職員に 関すること	利用者 に 関すること	施設に 関 すること	そ の 他	計
2年 4月	0	1	0	0	1
5月	0	0	0	0	0
6月	1	0	0	0	1
7月	0	0	0	0	0
8月	0	0	0	0	0
9月	0	0	0	0	0
10月	1	0	0	0	1
11月	1	0	0	0	1
12月	0	0	0	0	0
3年 1月	0	0	1	0	1
2月	1	0	0	0	1
3月	0	0	0	0	0
計	4	1	1	0	6

前年度件数

計	6	2	0	0	8
---	---	---	---	---	---

X III 事業報告の附属明細書

事業報告の内容を補足する重要な事項がないため、事業報告の附属明細書は作成していない。